

ひきこもり家族自助会とやま大地の会(設立 2001 年 3 月)

振込先 北陸労働金庫 富山南支店 普通 3414428 とやま大地の会

♪ ♪ 例会のおしらせ ♪ ♪



例会は、ミニ講演やグループでの分かち合いの場です。また個別相談会(希望者)も行っています。新型コロナ対策のため、実施について変更可能性もありますので、ご参加を希望される方は、本会のホームページでの確認をお願いします。

05 月 21 日(第 3 土曜日) 第 255 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 601 号室
06 月 18 日(第 3 土曜日) 第 256 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 703 号室
07 月 16 日(第 3 土曜日) 第 257 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 601 号室
08 月 20 日(第 3 土曜日) 第 258 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 701 号室

会費 正会員の 2021 年度からの年会費は 2,000 円。例会参加費無料。(振込料は各自負担です。) 非会員の方の、2021 年度からの例会参加費 200 円です。

サンシップでは駐車券を 2 階事務所にし、「大地の会」とおっしゃってください。無料になります。

サンフォルテでは駐車券を 1 階受付にし、「大地の会」とおっしゃってください。1 時間無料になります。

◎富山県ひきこもり地域支援センター、最寄りの厚生センター、保健所で相談をしましょう。適切な支援に繋がるよう力を借ります。

◎支援センターに希望すること、親に出来ることを常時募集しています。

◎ご相談があれば、大地の会のホームページからお問い合わせ下さい。

「とやま大地の会」のホームページですが、下記 URL で開設しています。ご覧ください。

<http://toyamadaichinokai.com/>



♪ 4 月例会報告 ♪

日 時: 4 月 16 (土) 13:30~15:45 サンシップとやま 601 号室

参加者: 21 名(男性 9 名{内体験者 3 名}、女性 12 名{内体験者 1 名})のご参加がありました。

例会が始まる前には、保科さんのハーモニカ演奏を聴きました。コロナ禍で声を出さず皆さんで“聴き”落ち着いたさわやかな気持ちになりました。

曲は『 荒城の月 』と『 みかんの花咲く丘 』でした。

I 総会報告

1 令和 3 年度結果

事業報告

例会の開催、会誌「花無心」の作成と送付、ミニ講演会、ホームページ揭示文の更新他、行いました。携帯電話は利用が少なく解約し、ホームページからのお問い合わせとしました。

決算報告

収入 年会費…会員 2 千円×37 名、途中入会など 15,950 円 5 名、当日会員 200 円×42 名 県から補助金、共同募金会から助成金をいただきました。

支出 事業の実施により支出いたしました。金額の記載は省略いたします。

2 令和 4 年度計画

事業計画

今年度は次を計画します。但しコロナ禍の状況によっては、変更いたします。

(1) 例会の開催と、会誌「花無心」の発行 毎月行います。

- (2) 例会時に、県内講師による研修会（ミニ講演）を、3回計画いたします。コロナ禍が落ち着き間に合えば、県外講師によるミニ講演を行います。
- (3) 公的機関の研修会・支援活動や、関係団体との交流会に参加し、結果を伝達いたします。
- (4) 会の役員に相談担当を置き、個別相談に応じます。
- (5) 8050問題「親亡き後、本人の今後の生活の…」について、必要と思う方5～6名で班を組み、話し合いをします。

予算計画

- 収入計画 年会費 2千円×50名、当日会費 200円×30名とします。
共同募金会からの助成金は継続していただけます。県の補助金は応募中です。
- 支出計画 事業の実施により支出いたします。金額の記載は省略いたします。

3 会の役員

- 代表 山岡和夫
- 副代表 片山和子・米谷貞吉
- 運営委員 保科勝文・橋本順子・酒田さなえ・米谷豊・田中美春



4 質問・補足

- ・担当者一覧について

KHJは、全国ひきこもり家族会連合会の略号で、大地の会は年会費を払い、情報を得ていますが、JYCは、何の略号で、大地の会との関わりは何でしょうか？

⇒ 一般社団法人「若者協同実践全国フォーラム」の略号で、会としてではなく個人として数人の方が会員になり、情報を得、伝達しています。2017年12月に、大地の会が事務局となり、富山大学で、「全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in とやま」を開催し、全国から600人近くの方々が参加されています。

- ・8050問題「親亡き後、…」について

3年度は2回、話し合いをしました。それのより親は不用品の整理、本人は自分でやり始めたなどの動きが少しあったかと思えます。4年度につきましては、必要を思っている方で、3ヶ月に一度のペースで、班分けの中で、必要と思う方で話し合いをしたいと思えます。全体へは、たまに報告し意見交換するなどして、緩やかに進めていきたいと思えます。

5 代表の挨拶

コロナ禍が複数年続き、各地域の行事が影響を受けていますが、皆さまのご出席や運営協力いただき、例会と会報発行を何とか継続できていますこと、本当にありがとうございます。

鴻原崇之さんは、『ひきこもる 子ども・若者の 思いと支援 自分を生きるために』の「第7章 ひきこもり経験者から見る、ひきこもり支援」で、自身のひきこもり経験と支援者経験から、「私たちにできるのは、”親のしんどさを受け止める”ことだと思います。・”子どもを理解するのは難しい、では何ができるかということですが、それはやはり”（子どものしんどさ）を受け止めてあげる”ことかと思えます。」と述べています。

私は、鴻原さんの”受け止める”という言葉に”なるほど”と思いました。例会の短い時間ですが、皆さまが語られる言葉から全体を理解するのは難しくても、「語り合い、聴き合い」により、しんどい思いをお互いに受け止め合うことを共有しているのだと感じます。

今年度も、皆さまとの話し合いを大切に、力を合わせて会を運営し、会報『花無心』も発行していきたいと思えます。

II いつもの話し合い 今回は全員で話し合いを行いました

家族父) 本年度は「生きやすさ」を考えていきたい。自分自身の生きやすさ。子どもの生きやすさ。今まで考えていなかった。やりすぎ、言い過ぎ、先送りすぎが多かった。過不足がないか息子に聞きながら支援を進めていきたい。

当事者) はじめて参加。ここで初めての方の紙をもらった。ひきこもりの方に対しては家族の手伝いだけでいい。時間がかかる。どれくらい手伝いをしていたか？どんなものなのか？聞いてみたい。

→ 本人ができることからしていた。除雪、家回りの掃除、買い物。傾聴が大事。

→ 1年以上かかる人もいる。5年10年かかる人もいる。アドバイスしなくていい。

しゃべらない子にはどう接しているか？自分の気持ちを伝えられないから会話したくない。

どうやって気持ちを受け止めてあげているか？

→ 話すきっかけや受け止めるは人それぞれ違う。

家族母) 息子は2度目のひきこもり。2年落ち着いている。親子関係は悪くなく、家事手伝いをしてくれている。昨日は米のとぎ方を教えた。今は穏やかに過ごしている。

家族父) 8050問題は当事者である。健康管理をしっかりしたい。息子の存在が「いい息子をもって幸せだ」と感謝している。息子との将来に向けての引継ぎを本人の意思と最大限尊重しながら保険の見直し等に取り組んでいる。

家族母) あれもこれも教えておこなきゃとってしまう。親としてできることは伝えていきたいが本人を信じて待つ。優しい息子で親を気遣って、父親にマッサージ機を買ってくれた。

家族父) 一緒に職場でともに働いている。父親である自分にも体力的限界があるが前を向いて仕事をしていきたい。

家族親戚) 電話で姪と話したら、市役所の方と姪が話している。駅前のショッピングセンターに行きたいと言い出した。今度叔母ちゃんと一緒に行けたらいいねと話している。

体験者) 当事者がしゃべることが困難な時は筆談やメール、文字のみでも訴えることが出来る。きっかけを作ることが出来る。信じて待つ、愛する、ひたすらまなざしで生きていていいんだよねと思えるように関わっていくことが大事。

※前回のうれしい報告をされた家族母から連絡あり。病院から帰ってきて、本人の気持ちを聞いた上で、精神的に自立してきた。寄り添いの日々であるが、少しずつ前を向いているとの連絡を受けた。

当事者) 料理は自分が作れないので、弁当(おかずのみ)の配達を試したが、土日の配達なしだったので自分も料理していかなければと思った。春になり自転車に乗ってサイクリングで足腰を鍛えている。

当事者) 色々あって少し疲れた。ひきこもり相談会で相談員をしてみて「生きているだけで十分」と実感した。自分には価値があるのかということ、その間、親が見守ってくれていたことなんて気づきもしなかった。でも辛い時、本当に動けなくなった。体が動かないことは怠けではない。自分なりに伝えたい。

家族母) 子供が不登校。大学も行けて卒業したが積極的に就職活動も出来ずにいたが中途採用で働きだした何とか今頑張っしてほしいなと思っている。人それぞれ、あるきっかけとか聞くが、その真っ盛りの時は、子どもを信じて待ちたいが難しい。



Ⅲ その他

1 例会ではなかなか十分に自分の話が出来ない。言い足りないことなど。日常のあゆみなど体験発表をしてみませんか？約 20 分間程度を予定しています。

2 投稿欄について

会員の皆さまから、“ひきこもりの理解”に関する本の紹介や講演の感想等、募集しています。

富山県ひきこもり地域支援センターからのお知らせ

相談時間：月曜日～金曜日 8:30～12:00、13:00～17:00 (要予約)

グループ相談を実施しています。

- ・本人グループ 毎週火曜日 10:00～12:00
- ・親グループ 毎月第2木曜日 14:00～16:00

まずはお電話でご相談ください。電話：076-428-0616

場所：富山県心の健康センター内 〒939-8222 富山市蜷川 459-1

Ⅳ つくしの会より (2003年設立)

市内2カ所で実施し、今はコロナ感染予防を徹底の上、主に話し合い中心の月例会と定例会を行っています。気候やコロナ関係などで、予定変更の場合もありますが、ご了承下さい。

5・6月の予定は、

月例会 5/8（日）、6/12（日）博労公民館にて 午後1時半より
おとぎの森定例会は、どなたでも参加歓迎、1回限りの方でもOKです。

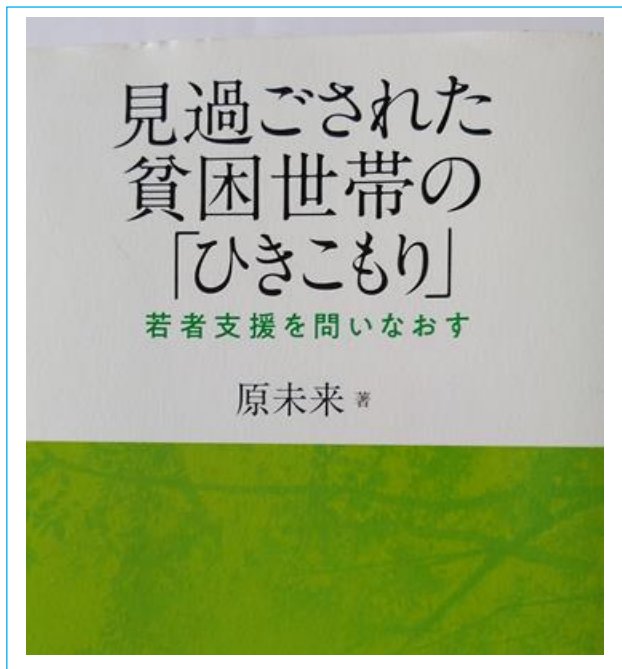
予定は
4/27（水）
5/11（水）、5/25（水）、5/28（土）
6/8（水）、6/22（水）、6/25（土）

おとぎの森 ふれあい館にて 午後2時～4時 です。

気候もよくなり、おとぎの森内の散策も充実しています。気軽に覗いてください。

※どの例会も、コロナ対策にご協力をお願いします。（体温測定、手指消毒、連絡先明記）

V 書籍の紹介 『見過ごされた 貧困世帯の「ひきこもり」』原未来著、大月書店



著者の原未来さんは、30代の若き教育学研究者です。学生時代から首都圏のひきこもり支援団体に関わり、ボランティアから非常勤スタッフになり、フリースペースで当事者の支援と交流を続けてきました。「その間、無業・孤立状態にある若者への社会的関心が経済的に中高階層の方たちに偏ってきたことに気づきました。経済的に厳しい家庭環境をもつ無業・孤立の若者が少なくないことを示し、これまで不可視化されてきた経済的に厳しい層の無業・孤立状態にある若者への注目から、若者支援とはどのような営みであり、何が求められているのか、提起することを試みたい。」と書いています。

私は、本県でも、経済的に厳しい家庭環境をもつ無業・孤立の若者が少なくなく、実質的に支援を受けることができないでいる方が少なくないのではないかという問題意識を持ち、今回、紹介させていただくことにしました。（やまおか）